

技術情報

関係機関・団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

トビロウンカ防除の徹底について

トビロウンカの発生状況については、**平成19年9月6日付注意報第5号**を公表し、ほ場での発生状況確認と防除の徹底を呼びかけたところです。しかし、依然として気温の高い日が続き、一部では発生量が多いほ場もみられ、坪枯れが発生しているところもあります。発生状況はほ場毎に異なるので、農家各位それぞれのほ場を見回り、できるだけ広い範囲の発生状況の調査をし、防除対策に怠りのないように指導をお願いします。

1 作物名 普通期水稻

**2 病虫害名 トビロウンカ**

3 発生状況

9月2半旬定期調査では、10株当たり払い落とし成幼虫数は5.5頭で、多発した平成17年より多く、発生ほ場率も81.3%で高かった（注意報第5号）。依然としてトビロウンカの生育に適した高い気温が続いている状況である。

9月19日、20日の定期調査23地点の結果では、10株当たり払い落とし成幼虫数29.8頭（うち中老齢幼虫7.7頭）で、ほ場によっては発生密度が高い状況にある。

4 防除上注意すべき事項

（1）9月14日付福岡管区气象台発表1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、本虫の発生に好適な条件が続くと予想されるので収穫まで注意を怠らず、それぞれのほ場を見回り、発生状況を確認する。

発生状況はほ場毎に異なっており、要防除水準を超える場合は坪枯れ発生の恐れがあるので、早急に防除を行う。

**9月下旬の要防除水準：払い落とし調査で10株当たり中老齢幼虫が100頭**

（2）幼虫の齢期が進むに伴い吸汁量が多くなり、水稻への被害は大きくなるため、特に中老齢幼虫の発生状況に注意する。

（3）出穂後は、薬剤が株元へ到達しにくくなる。トビロウンカの生息域である**株元に薬剤が十分届くよう散布する**。

（4）農薬散布の際は、**収穫前日数や使用回数**などの農薬使用基準を遵守するとともに、飛散防止に努める。